

目標と基本方針

■計画の目標から基本方針まで

本計画の基本理念及びみどりの将来像と、その実現に向けた目標を設定し、その目標を実現するための基本方針を定めました。

基本理念

人と自然が共生し、「みどりに親しめるまち横須賀」を育み、未来へ引き継ぐ

将来像

多様なみどりが身近に存在し、それらがネットワークされた自然のめぐみあふれる「みどりの中の都市」

目標

みんなの力でみどりの量を維持・向上させるとともに、生物多様性の向上などにより、みどりの質を高めます

(1) 量の個別目標

- ・目にみえるみどりの維持・向上を目指します（緑被率；53.1%の維持・向上）
- ・みどり豊かなまちを目指します
（近郊緑地保全区域；2地区，1,012ha及び風致地区；5地区，1,355.7haの維持）
- ・都市公園（696.1ha）を維持するとともに、適切な配置を目指します
- ・自然共生サイトの目標面積を193.9haとし、生物多様性の保全エリアを増やします

(2) 質の個別目標

- ・みどりの機能を向上させ、人々に安全で快適な暮らしを提供します
- ・市民のニーズに合った都市公園の整備、管理と、民官連携による積極的な活用を推進します
- ・様々な主体と連携して、ネイチャーポジティブの実現を目指します
- ・みどりや生物多様性の資源の持続可能な活用を推進し、未来へ引き継ぎます



基本方針

基本方針1
みどりの保全・
創出と機能の向上

基本方針2
魅力ある公園づくり

基本方針3
生物多様性の
保全と活用

基本方針4
みどりと自然の
めぐみの継承



施策

13の重点施策と14の継続施策

目標から施策までの体系

1 基本理念

人と自然が共生し、 「みどりに親しめるまち横須賀」を育み、未来へ引き継ぐ

本市では近代から現代にかけての急激な都市化と生活様式の変化によって、みどりが減少し、自然環境の荒廃が進みました。また、これに加え、地球温暖化や気候変動、外来種の移入によって、本来その地域に生息、生育する生きものの消失、減少も進行しており、生態系にも影響が出ています。

みどりや生物多様性の損失を防ぎ、わたしたちが今後も自然のめぐみを楽しんで生活していくためにも、「人と自然は共に生きる(=共生)」ことを再認識し、人間の生活環境だけでなく多様な生きものが生息や生育、繁殖していくことができるみどりを基盤とした豊かなまちづくりが求められています。

そうしたまちづくりの実現には、みんなでみどりや生態系を守り、育み、活かす(=親しむ)ことが重要です。こうしたことが行える場や機会を増やしていくことは、みどりや生態系の価値を高めることでもあり、その結果として、都市の価値と魅力を高め、市民満足度やシビックプライドを向上させることにも繋がると考えられます。

本市は平成9年(1997年)に「横須賀市緑の基本計画」を策定して以降、みどり豊かな都市を目指すために、みどりの保全や創出、質を高める取組みを行ってきました。これまでの計画の基本理念を継承し、横須賀市の持続的な発展と、市民の豊かな暮らしを持続的なものにするために、「みどりに親しめるまち横須賀」を育み、未来の世代に引き継いでいくことを目指します。

2 将来像

多様なみどりが身近に存在し、それらがネットワークされた 自然のめぐみがあふれる「みどりの中の都市」

本市には丘陵、斜面緑地、里山環境、農地、ため池、河川、海辺(自然海岸)、まちなかの公園、市街地のみどり(街路樹、各家庭のみどり)など、「多様なみどり」が存在し、そのみどりの中には多様な生きものが生息や生育、繁殖しています。これらのみどりが人々の生活の場に身近に存在することで、人々は自然のめぐみを楽しむ機会が増えるとともに、いきいきと心豊かな生活を送ることが可能となります。

また、これらの多様なみどりを単独で存在させるのではなく、それぞれを繋ぎネットワークさせることで、生物多様性の向上などにより豊かな自然環境を育むとともに、三浦半島らしい美しい都市環境の形成に寄与します。

こうしたことから、都市の中にみどりを配置するのではなく、「豊かなみどりの中に都市が存在している」姿を将来像とし、その実現を目指します。

横須賀市の空間的特徴



【農地・里山】

■農地・里山の機能

- ・食卓を支える農産物(よこすか野菜など)の生産場所です。
- ・雨水を溜め、地下に水を浸透させることで、健全な水循環を保ちます。
- ・農地利用や里山の利活用により、土壌の流出が抑えられます。
- ・農地、里山を生かした環境教育の場となり、自然にふれる機会を提供します。
- ・丘陵地に広がる農地、里山の風景は横須賀らしい魅力の一つです。
- ・まとまりあるみどりが残っていることで、多様な生きものすみかとなります。

■求められる活動

- ・稲作や「よこすか野菜」の農作の推進、継続
- ・里山の定期的な手入れ(草刈り、枝払い)
- ・動植物のモニタリング、外来生物の除去
- ・市民向けの観察会や体験イベントの開催

【樹林地】

■樹林地の機能

- ・健全な水循環が保たれることで、水資源が供給されます。
- ・気温を調整し、空気中の二酸化炭素などを吸収します。
- ・植生が雨水をため、地下に浸透させることで、土壌の流出が抑制されます。
- ・環境教育や活動の場となり、自然にふれる機会を提供します。
- ・まとまりある緑や貴重な自然環境が残っていることで、生きものすみかとなります。

■求められる活動

- ・樹林地の定期的な手入れ(枝払い、倒木の恐れのある木の伐採、植樹、下草刈り)
- ・動植物のモニタリング
- ・市民向けの観察会や体験イベントの開催

【住宅地】

■住宅地のみどりの機能

- ・気温を調整し、空気中の二酸化炭素などを吸収します。
- ・植生が雨水をため、地下に浸透させることで、健全な水循環が保たれ、住宅等への浸水が抑制されます。
- ・住宅地の公園などのオープンスペースは市民の憩いの場にもなります。
- ・街路樹や社寺林などの点在するみどりは生きものすみかや移動経路となります。

■求められる活動

- ・住宅地内の緑の管理
- ・公園植栽の定期的な管理(除草、植え付け)

【都市域】

■都市域のみどりの機能

- ・気温を調整し、空気中の二酸化炭素などを吸収します。
- ・植生が雨水をため、地下に浸透させることで、健全な水循環が保たれ、建物等への浸水が抑制されます。
- ・公園などのオープンスペースは市民の憩いの場にもなります。
- ・街路樹や社寺林などの点在するみどりは生きものすみかや移動経路となります。

■求められる活動

- ・公共緑地の緑の管理
- ・公園植栽の定期的な管理(除草、植え付け)
- ・イベント開催等による公園の活用

【海岸域】

■海岸域の機能

- ・食卓や経済を支える水産物が獲れます。
- ・自然的な海岸は美しい景観を形成し、観光資源としても地域に貢献しています。
- ・自然的な海岸や小田和湾には干潟が残されており、貴重な海岸植物や水生生物のすみかとなっています。
- ・港湾緑地や親水護岸は水生生物のすみかとなっています。
- ・藻場は、炭素固定の場として貢献しています。

■求められる活動

- ・海岸の定期的な清掃
- ・藻場などの植え付け
- ・イベント開催等による観光資源としての活用

【都市公園】

<自然環境を保全する公園>

■生態系サービス(生息)

市内に点在する公園のみどりは生きものすみかや移動経路となり、生態系ネットワークの形成につながります。

■求められる活動

- ・公園の緑の定期的な除草や植え付け、植樹
- ・動植物のモニタリング

<積極的に活用する公園>

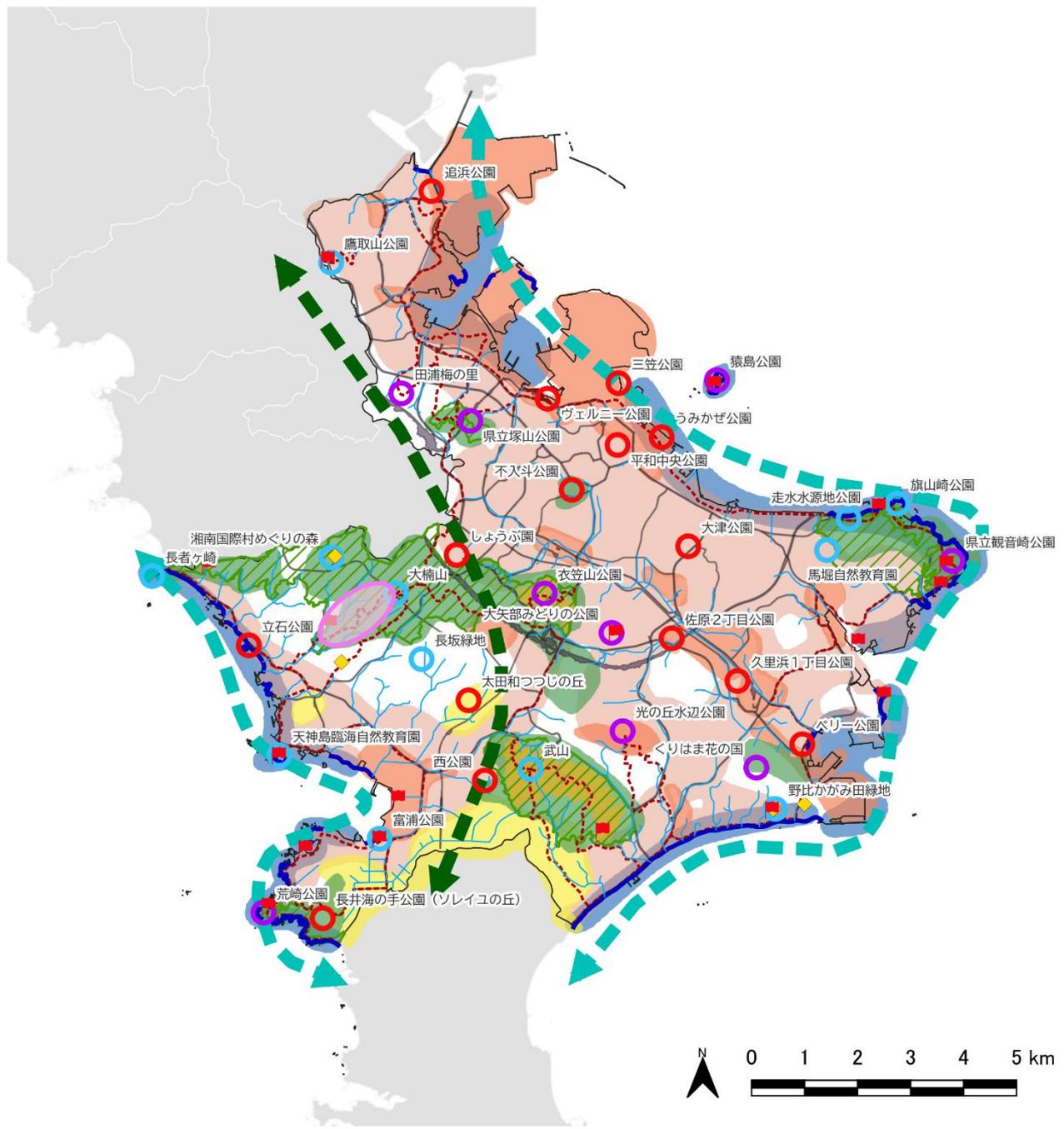
■生態系サービス(生息)

公園のようなオープンスペースは市民の憩いの場となり、自然に触れる機会や運動機会の増加につながります。

■求められる活動

- ・環境教育機会を提供する観察会等の開催
- ・その他イベント開催や定期的な活動等による公園の積極的な活用

- 交流の拠点
- 自然・交流の拠点
- 自然の拠点
- 近郊緑地特別保全地区
- 近郊緑地保全区域
- ←→ みどりの保全・活用のための広域的な連携
- ←→ 水辺空間と一体となった緑の空間
- 河川
- 自然海岸
- プロムナード・散歩道
- かながわ生物多様性ホットスポット
- ◆ 自然共生サイト
- (仮称)三浦半島国営公園
- 都市域
- 住宅地
- 樹林地
- 農地・里山
- 海岸域



将来像図

3 目標

みんなの力でみどりの量を維持・向上させるとともに、 生物多様性の向上などにより、みどりの質を高めます

みどりの将来像の実現に向け、本市が目指していきべきみどりの目標を上記のとおりとします。多面的な機能を有し、生きものの生息や生育、繁殖の基盤ともなるみどりの量を維持及び向上させるとともに、生物多様性の向上等により、みどりの持つ機能をより効果的に発揮できるように質を高めます。その結果、みどりや生物多様性の価値が高まり、本市の都市イメージを向上させ、市外からの観光や集客、定住人口の増加など、都市の価値と魅力を高めることにも寄与すると考えます。

(1) 量の個別目標

◇目に見えるみどりの維持・向上を目指します（緑被率；53.1%の維持・向上）

「樹木や草地など植物で覆われた土地（樹林地、草地、田畑など）の面積」を「緑被」として本市におけるみどりの全体量を表す指標「緑被率」とします。本市のみどりは、市民生活に必要な都市施設の整備や、斜面緑地の防災工事の施工などにより減少する可能性があります。

そのため、当面は、様々な主体と協力しながら、みどりを守り、つくすることで、みどりの減少量を抑え、維持、向上していくことが求められます。また、みどりの維持、向上によって、カーボンニュートラルの実現にも貢献します。

◇みどり豊かなまちを目指します（近郊緑地保全区域；2地区,1,012ha 及び風致地区；5地区,1,355.7haの維持）

近郊緑地保全区域などの一定の制限が掛かる地域制緑地を適切に保全し、維持することにより、本市の地形的特徴であり骨格となる丘陵のみどりを守るとともに活用し、みどり豊かなまちを目指します。

◇都市公園（696.1ha）を維持するとともに、適切な配置を目指します

豊かな市民生活に欠かせない都市公園については、既存の公園を適切に維持していくことを目標とします。さらに、後述する都市公園の質を高めることにより、市民の暮らしに潤いと安らぎの空間や運動、余暇活動の場などを提供し、市民のいきいきとした生活や、交流人口や定住人口の増加へ貢献します。

◇自然共生サイトの目標面積を 193.9ha とし、生物多様性の保全エリアを増やします

みどりの基本計画を指針とし、みどりを保全してきた結果、野比かがみ田緑地は生物多様性が保全され、自然共生サイトに認定されました。生物多様性を保全し、生物多様性国家戦略の目標である 30by30 の達成に寄与するために、今後他の緑地でも、希少なみどりの保全を進めます。その目標として、市内の自然共生サイトの面積を 193.9ha（7ヶ所）まで向上させ、生物多様性が豊かな環境の保全を図ります。

第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
資料編

(2) 質の個別目標

◇みどりの機能を向上させ、人々の安全で快適な暮らしを提供します

近年の地球温暖化や気候変動による極端気象等に対応するため、樹林地や都市の中のみどりの安全性や快適性を重視していく必要があります。みどりの機能維持増進を図り、良質なみどりを確保することは「安全で住み続けたいまち」として、本市の持続的発展に欠かせない「価値のあるみどり」になると考えられます。

◇市民のニーズに合った都市公園の整備や管理と、民官連携による積極的な活用を推進します

パークマネジメントの視点を取り入れた都市公園の整備や管理、活用を促進します。これらを通して、地域の活性化やコミュニティの醸成など市民に有益な公園であるとともに、安全、安心な公園の管理、運営を目指します。さらに、行政だけでなく、プロスポーツチームとの連携や Park-PFI の実施等の民官連携事業にも取り組み、魅力のある公園づくりを進め、Well-being が実感できるまちを目指します。

◇様々な主体と連携して、ネイチャーポジティブの実現を目指します

都市化や生活様式の変化に伴い、良好な自然環境が損なわれ、特定外来生物等が移入し、生物多様性が失われつつあります。そこで、特定外来生物の排除や、希少種をはじめとした在来種の保全の取り組みを進め、多様な生きものが生息や生育、繁殖できる健全な生態系を保全及び再生していくことを目指します。このような取り組みを、市民や行政だけでなく、民間団体などの様々な主体とも協力や連携して進め、ネイチャーポジティブの実現を目指します。

◇みどりや生物多様性の資源の持続可能な活用を推進し、未来へ引き継ぎます

保全、創出されたみどりや生態系を持続的に活用することで、本市の都市イメージを向上させ、都市の価値、魅力を高めることができると考えます。そのため、みどりや生物多様性資源の積極的かつ持続可能な活用を進めていきます。また、環境教育や普及啓発の場として利用していくことで、みどりや生物多様性の大切さを未来に引き継いでいきます。

4 基本方針

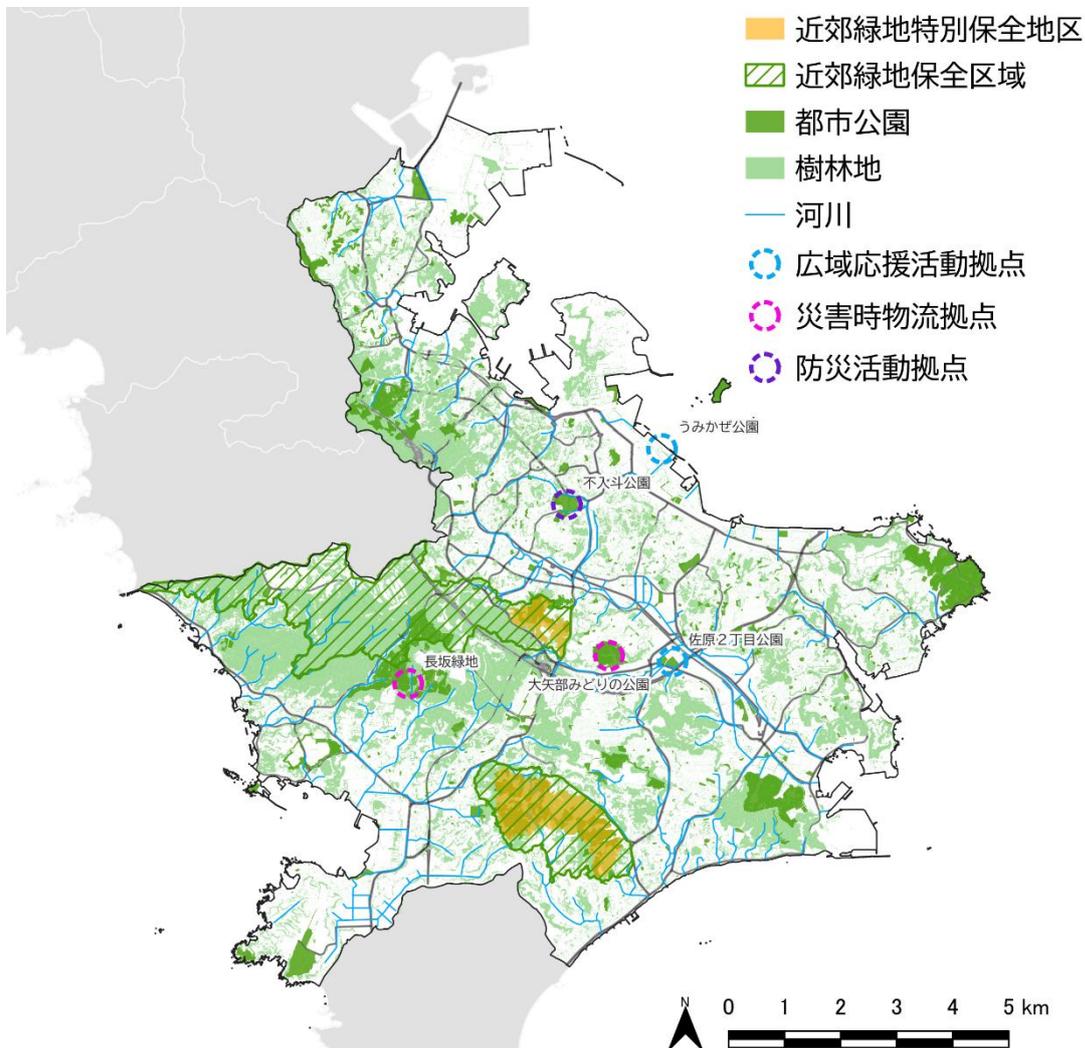
計画の目標（基本理念、将来像、目標）を達成するための基本方針を次の4つに定めます。この4つの基本方針に基づいて、本市のみどりの保全、創出を推進するための施策を展開していきます。

基本方針
1

みどりの保全・創出と機能の向上

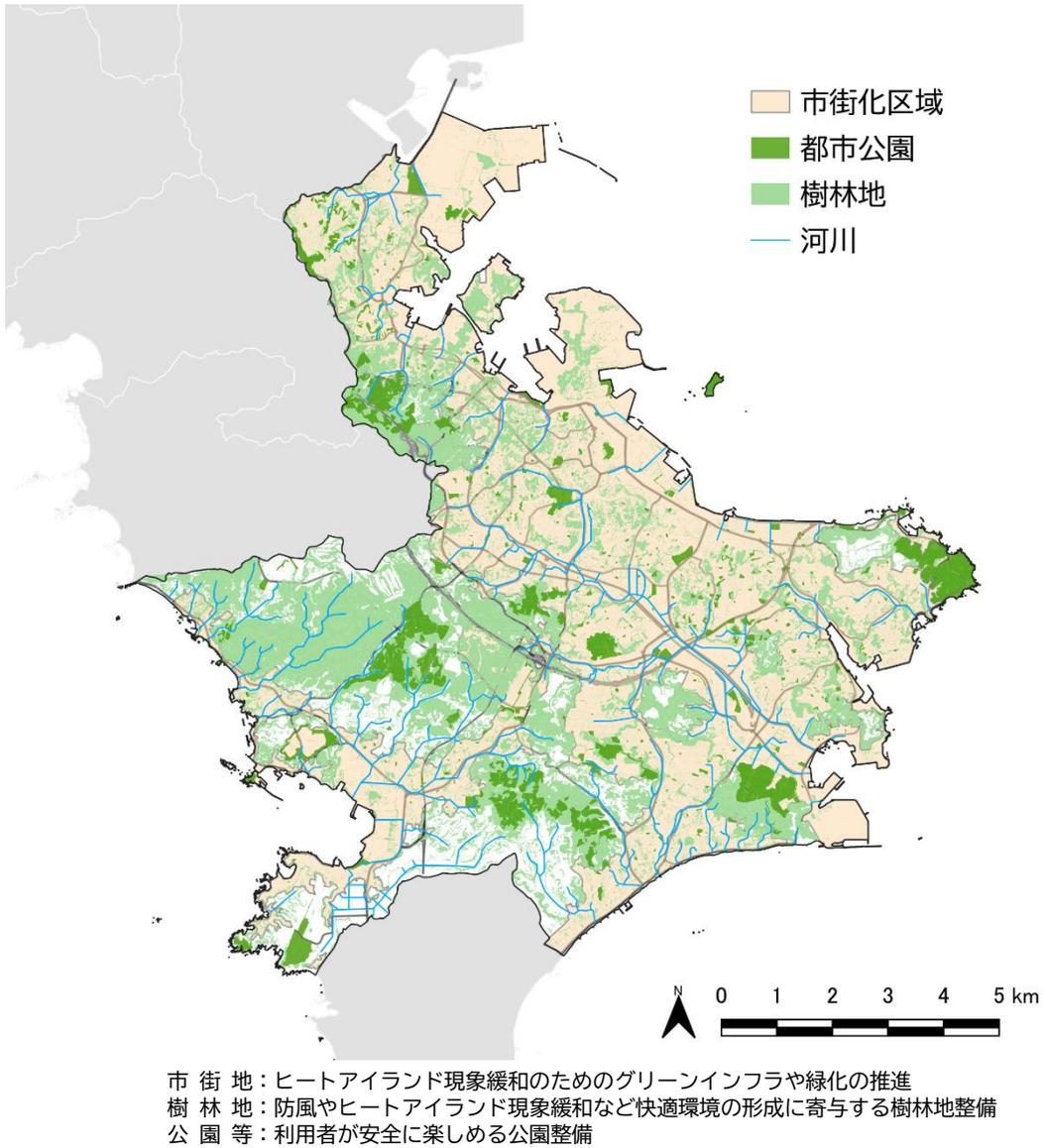
～多様なみどりの環境を良好な状態で保全・創出するとともに、期待する効果に応じたみどりを整備します～

みどりは多様な機能を有しています。そこで市内の豊かなみどりを守り、整備、活用していくことで、防災力を高めるとともに、都市域のヒートアイランド現象を緩和する等、安全、安心で快適な環境づくりを目指します。また、みどりを保全、創出することで、地球温暖化対策や気候変動対策等にも寄与します。

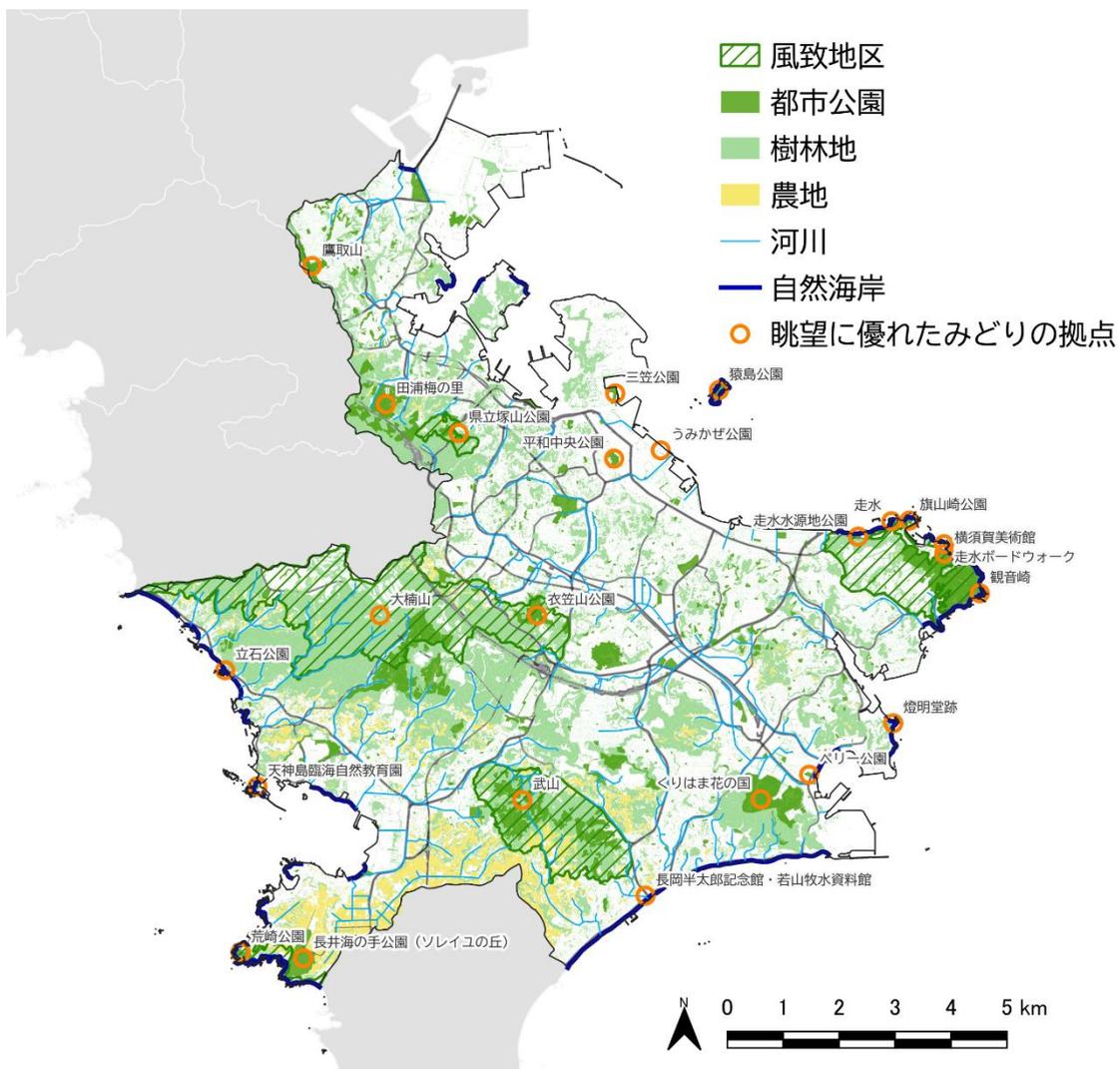


近郊緑地：流域治水を含めた防災機能向上のための樹林地の維持管理
 樹林地：安全を第一に考えた樹林地の適切な維持管理
 公園等：防災機能を有する都市公園の整備、リニューアル

みどりの保全・創出と機能向上の方針図（安全、安心に関するみどりの方針）



みどりの保全・創出と機能向上の方針図（快適な環境形成に関するするみどりの方針）



樹林地：まちの景観を形成する樹林地の保全
 農地：農地のみどりの保全
 地域性緑地：制度等の適切な運用による風致等の維持と新規指定の検討
 自然海岸等：海辺景観と一体となったみどりの保全

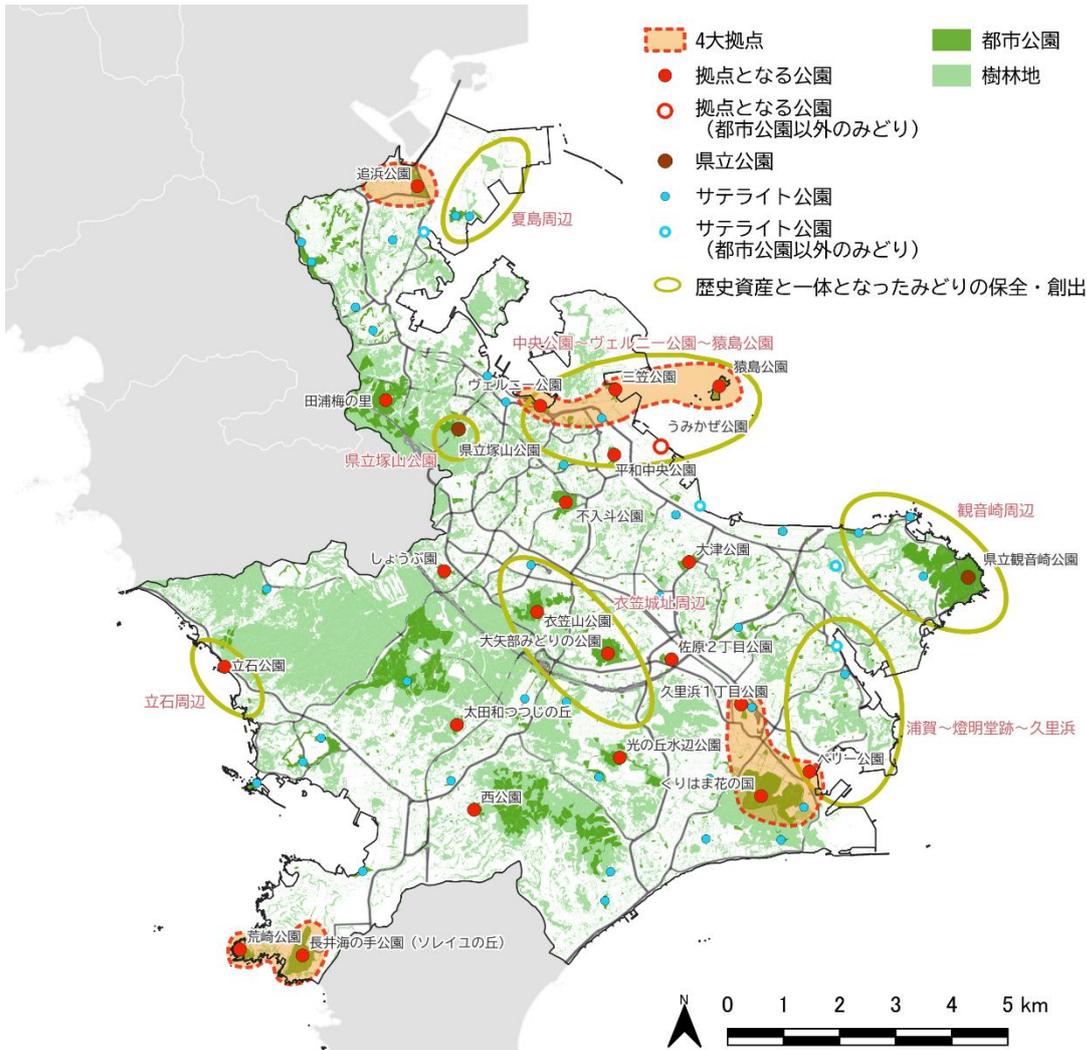
みどりの保全・創出と機能向上の方針図（景観形成に関するするみどりの方針）

基本方針
2

魅力ある公園づくり

～人々の交流や健康に寄与するみどりを守り、つくり、まちの活性化を図ります～

公園は、人々の生活に憩いや楽しみを提供し、健康増進に寄与するほか、観光や交流の拠点ともなる大切な場です。公園を誰もが利用しやすいように適正に配置したり、個性的で魅力あるものにしたりとすることで、交流人口を増加させ、市民生活の質の向上や都市の価値や魅力を高めます。



4大拠点：周辺施設と一体となった公園づくり
 拠点となる公園：地域を特徴づける個性的な公園づくり
 サテライト公園：地域の魅力や快適性の向上、にぎわいの創出を目指した公園づくり
 街区公園：地域ニーズをふまえた公園づくり

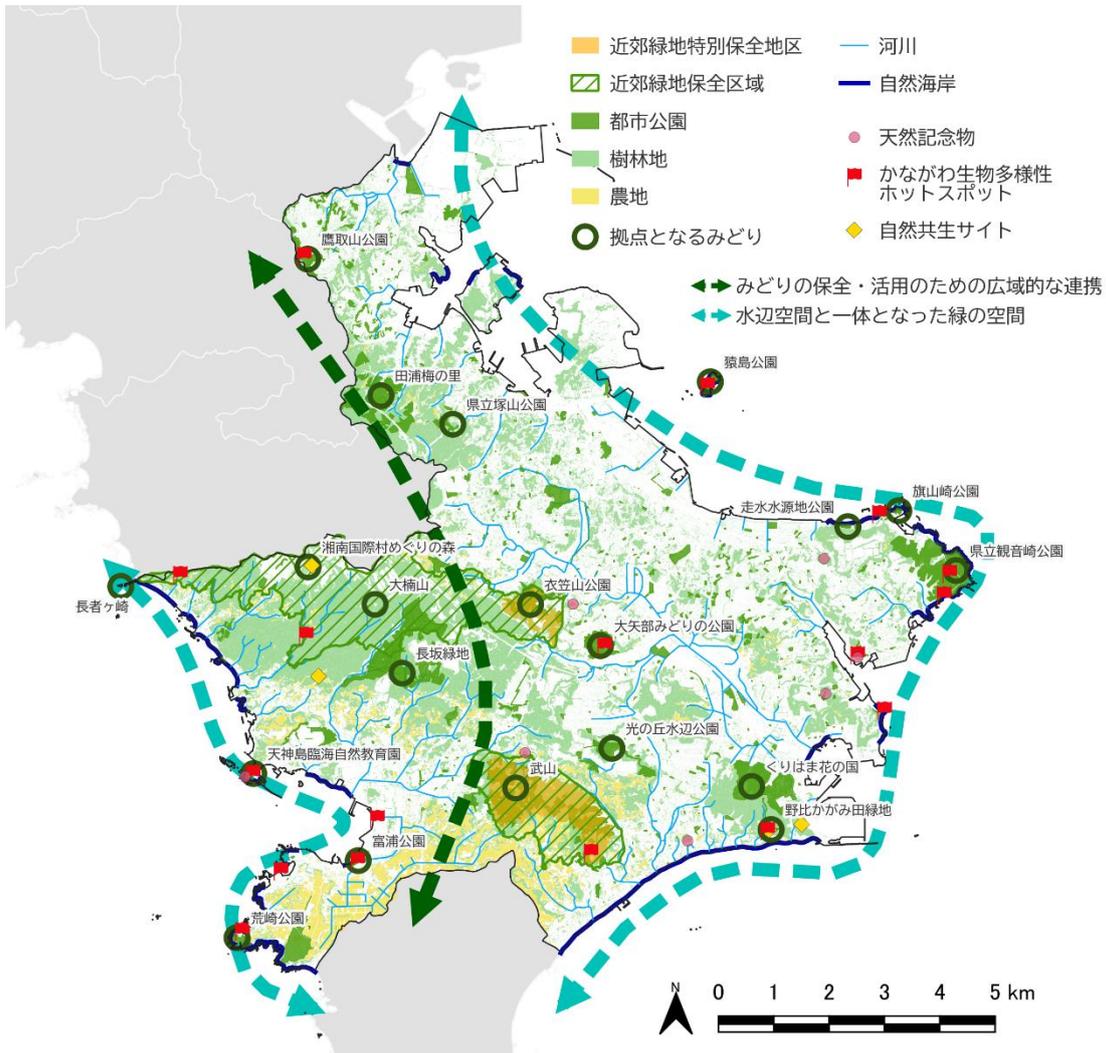
魅力ある公園づくりの方針図

基本方針
3

生物多様性の保全と活用

～地域の生態系を守り維持するとともに、みどりにふれる機会を提供します～

生物多様性の保全は、人と自然との共生を考える上で大切な要素です。本市では生物多様性の保全の場の創出、維持のために里山的環境保全事業を実施しています。今後もこの事業を継続していくとともに、市民団体や民間企業などの多様な主体が保全や活用に参加できるよう取組みを広げていきます。また、市内全体の生態系の保全のために、特定外来生物の駆除を継続し、在来種を保全していくとともにそれらの動向にも注意を払っていきます。横須賀市のみどり豊かな自然環境に人々がふれあえ、めぐみを楽しむことができるように、生物資源を適切に活用していきます。



拠点となるみどり：良好な自然環境を有する拠点の保全と活用
 保護地域等：制度等の適切な運用による保全
 広域的な連携：近隣市町との連携による生態系ネットワークの保全と活用

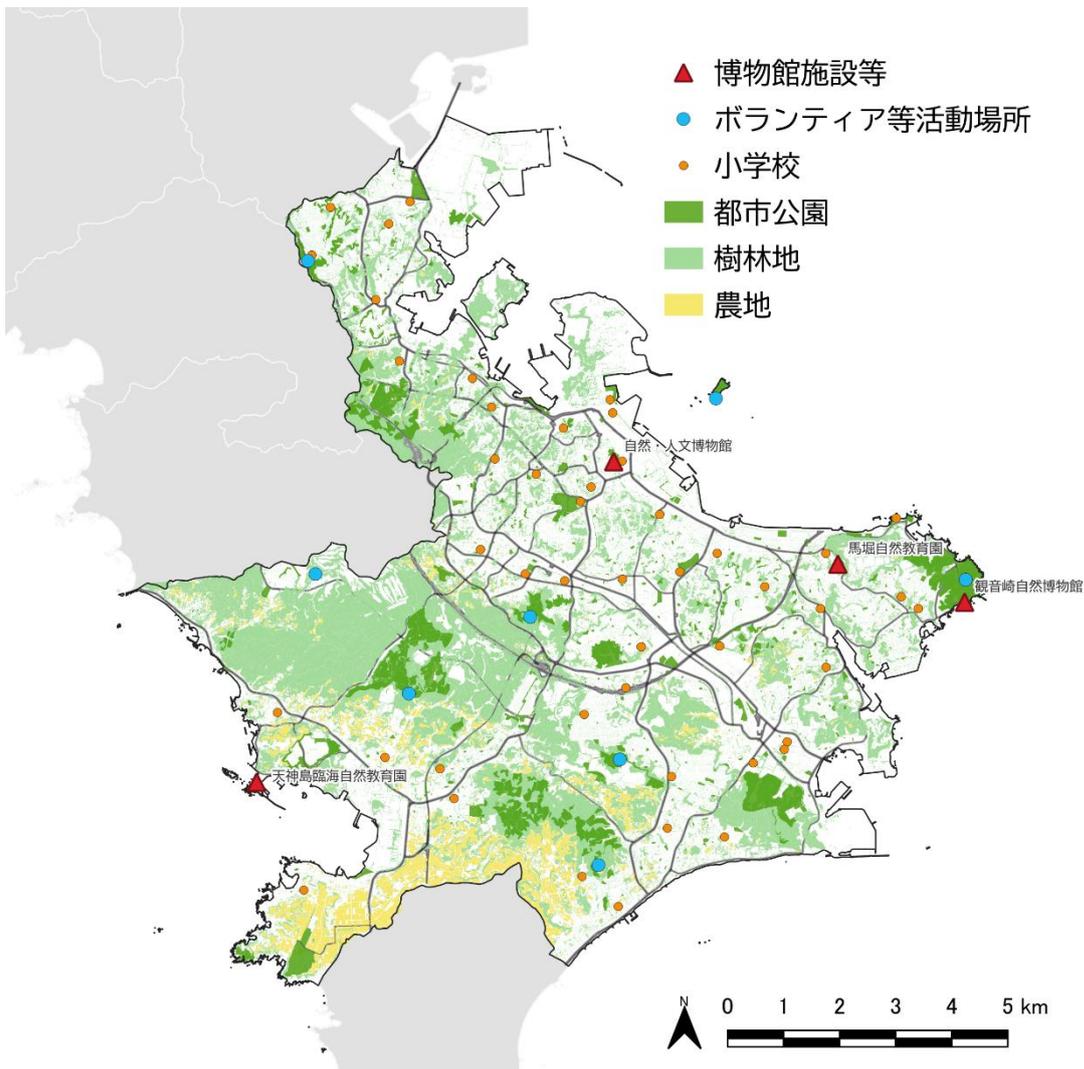
生物多様性の保全と活用の方針図

基本方針
4

みどりと自然のめぐみの継承

～みどりや生きものと親しみ、大切にすることを未来の人々に継承します～

みどりの持つ機能や役割が一層発揮されるためには、積極的にみどりに対する働きかけをしていく姿勢が大切です。様々な主体がみどりを育てながら活かし、未来に継承していくために、市は率先して観察会等のイベント、情報発信、自然活動団体の支援の充実、各部署の連携を図ります。また、将来の担い手である子どもたちへの環境教育を充実させ、みどりや生きものを大切にすることを継承するために、学区の自然環境体験事業や環境指導者派遣事業などの環境教育を今後も継続して実施していきます。



博物館施設：みどりや生きものに関する情報発信や啓発活動
ボランティア団体活動場所：啓発活動の支援
小 学 校：環境教育の推進

みどりの継承の方針図

日々の暮らしの中で、私たちは自然のめぐみをたくさん享受しています。例えば海で魚釣りを楽しんだり、山でハイキングをし、景色や空気に癒されたりするのも、すべて自然からの贈り物です。

身の回りにどんな自然のめぐみがあるかを考え、大切にすることがこれからも豊かな暮らしを続けるために大切です。まずは身近な自然に目を向け、そのめぐみを感じてみましょう。



地元の食材を味わう



海辺での釣り
(出典：横須賀市観光協会)



自然の中での散策



マリンスポーツ

自然のめぐみと人の健康との関係

「人間には“自然とつながりたい”という本能的欲求」があり、これをバイオフィリア仮説と呼びます。この考えを基に植物等による健康効果を期待した、バイオフィリック・デザインが近年注目を集めています。近年の研究ではみどりの健康効果（ストレスや Well-being）が実証され、都市におけるみどりの重要性が評価され、WHO 欧州環境健康センターもエビデンスを基にした実践方法を提言しています。

みどりがもたらす健康増進効果の調査結果

- ・草地、樹林地を含む緑地はメンタルヘルスに良い影響をもたらします。また、メンタルヘルスにさらに良い影響をもたらすためには緑地での体験（自然とのふれあい等）も重要であると指摘されています。
- ・緑地の利用頻度が高いとストレスの軽減とともにメンタルヘルス・身体的健康の増進に寄与し、結果として Well-being の向上につながります。
- ・森林浴や緑地散策といった行動が都市の人工面の歩行時に比べて、副交感神経の活動が高まることなどにより、リラックス効果を得られることが報告されています。

(出典：Green and Blue Spaces and Mental Health 実践に向けた新たなエビデンスと考え方 日本語版 (World Urban Parks ジャパン, 2024) より抜粋)

